



秘密保護法案 採決強行

たたかいはこれから 参議院で廃案に

11月26日、自民、公明、みんなの党は、衆院本会議で「秘密保護法案」を強行採決。怒りの声を広げに広げ、廃案におこみましよう。

日本共産党



秘密保護法案の強行採決は許されないと抗議に集まった人々＝26日、首相官邸前

国民の声を恐れての、 追い詰められての暴挙

日本共産党の志位和夫委員長は同日、国会前で開かれた緊急抗議集会でありさつし、「国民の声を恐れての、追い詰められての暴挙だ」と強行採決を批判。本会議後、記者会見し、廃案に追い込む決意を表明しました。

日本共産党・赤嶺議員が反対討論

赤嶺政賢衆院議員は衆院本会議で質問に立ち、(1)政府の恣（し）意（い）的判断で「特定秘密」が勝手に決められること(2)重刑で国民を監視し、取り締まる弾圧立法であること(3)国民の目、耳、口をふさいで、日本を「海外で戦争する国」につくりかえようとするもの—の3点をあげ、「基本的人権、国民主権、平和主義という日本国憲法の基本原理を根底から覆す」と批判。「違憲の秘密保護法案の成立を阻止するため、広範な国民と共同し最後までたたかう」と決意を表明しました。

国民多数の「ア」で
安倍政権を包囲しよう

裏面へつづく→

●真実がわかる 明日が見える—「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。（日刊紙3400円/日曜版800円）

国政事務所ニュース

2013年
11月号外

発行：日本共産党国会議員団愛知事務所
〒460-0007 名古屋市中区新栄3-12-27 電話052-261-3461
日本共産党の見解を紹介します。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。



戦争中も、 私は知らなかった

阿久比町 田中 邦雄さん（87歳）

今日では、意外に思われる人が多いでしょうが、侵略戦争中に青年であった私たちは、敗戦後まで「戦艦大和」の存在を知りませんでした。戦争中も世界中周知のこの軍艦は、存在も、名も、秘密だったのです。

半年間の凄惨（せいさん）な戦闘で多くの戦死者・餓死者を出した「ガダルカナル島」の名も、撤退後になってはじめて公表。それどころか今は子どもも知っている「ゼロ戦」が新聞に紹介されたのは、もう役に立たなくなった敗戦間際の1944年末。それまでは「海軍の無敵戦闘機」と、世界は熟知していても、国民には名すら知らされなかったのです。

多くの犠牲を出した44年12月の東南海大地震も「被害は軽微」の見出しで、新聞報道はベタ1段数行でした。

これが秘密保護法です。アメリカCIAの国際犯罪をあくまで隠し、日本政府は擁護し通す、オスプレイは無通告で四国上空を飛び回る。こういう真実の公表こそ必要です。国権の最高機関の国会に、秘密、刑罰とは、なにごとでしょうか。

（11/2付「しんぶん赤旗」読者の広場より）

秘密保護法で
アメリカと一緒に
戦争できる国に



マンガは平和新聞11/5付より